

# 熱中症情報

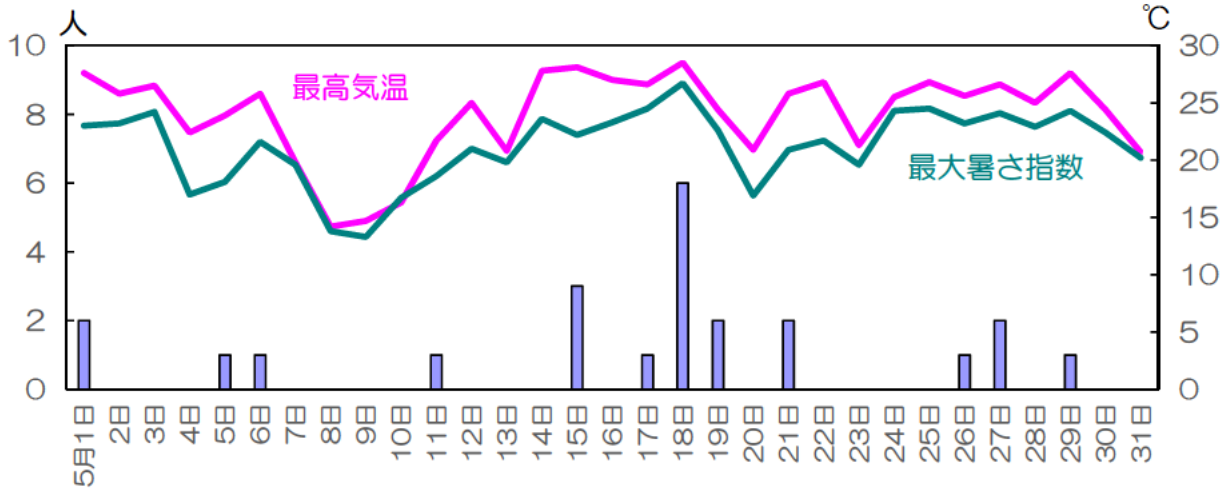
## <搬送数>

平成30年5月1日～31日までの搬送数（消防局データを使用）は、計23人でした。

熱中症は、梅雨入り前の5月ごろから発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。

気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

身体がまだ暑さになれていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温は28℃を超えないように調節し、暑さから身を守りましょう。



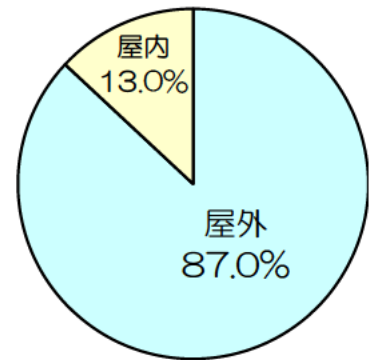
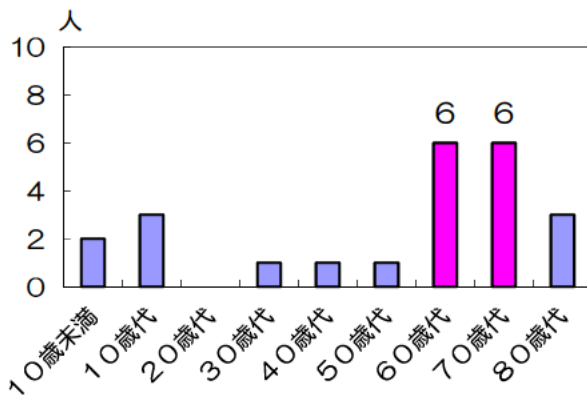
**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「[環境省熱中症予防情報サイト](#)（暑さ指数(WBGT)とは?）」をご覧ください。

## <年齢別>

年齢別では、60・70歳代が多く、

## <発生場所>

屋外87.0%、屋内13.0%で、屋外での発生が多くなっています。



## <重症度>

軽症73.9%、中等症26.1%、重症以上はいませんでした。

中等症は、高齢者（65歳以上）の屋外での歩行中に多く発生しており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

